

Y Combinator MEETUP IN TOKYO

hosted by  **SVJP**
Silicon Valley Japan Platform

ABOUT

イベントについて



佐藤 輝英

SVJP エグゼクティブ・コミッティー メンバー
BEENEXT PTE. LTD.
ファウンダー&マネージングパートナー

2018年9月末に世界最高峰の起業家育成プログラムを提供する米国のYコンビネーター(YC)とSVJPが日本初のYCオフィシャルイベント「Y Combinator Meetup in Tokyo」を共同開催しました。慶應義塾大学、東京大学のサポートもいただき、3日間に渡るイベントに総勢で1000人以上の参加申し込みがあり、大変な盛り上がりを見せました。

来日したYCのパートナーたちに日本の起業家が自社のサービスをプレゼンする「オフィスアワー」企画や、YCの卒業生起業家を交えたトークセッション、量子コンピュータ、医療、バイオ、ロボティクス、AIといったテーマでの講演や、同分野に関わる日本発のスタートアップ起業家を交えたパネルディスカッションなど、盛りだくさんのイベントとなりました。

2005年の設立以来、Airbnb、Dropbox、Stripeといった名だたる企業に初期段階から投資し、世界中で累計1900社のスタートアップへの投資実績があるYC。シリコンバレーへの新しい登竜門となりつつあるYCを通じて、日本から世界に羽ばたいていくスタートアップが数多く生まれていく日が近いことを確信できた3日間となりました。

当イベントの企画、運営において様々なサポートを頂きました皆様に御礼申し上げます。

PROGRAMS

プログラム

Day 1 | **YC Office Hour**
at ヤフー株式会社「LODGE」

14:05-14:10

Opening Remarks

佐藤 輝英

14:10-17:05

YC Office Hour (公開/非公開)

Tim Brady / Eric Migicovsky / 前田 紘典

17:05-17:10

Closing Remarks

Eric Migicovsky

17:10-18:00

Networking

Day 2 | **Startup School**
at 慶應義塾大学三田キャンパス

10:15-10:45

The Quantum Computing Panel

伊藤 公平 / Rodney D. Van Meter /
尾原 和啓

10:45-11:15

From Japan to YC

福山 太郎 / 前田 紘典

11:15-11:45

How YC Works

Tim Brady / 前田 紘典

12:00-12:30

Open Office Hour

Tim Brady / Eric Migicovsky

12:30-13:00

Chat with YC Alumni - Atomwise

Abraham Heifets / Tim Brady

13:00-13:30

Future of Medical Technology

中村 雅也 / 田澤 雄基 / 山岸 広太郎

13:30-13:55

Building a Cancer Detection Company

東 志保 / 尾原 和啓

Day 3 | **Startup School**
at 東京大学本郷キャンパス

13:40-14:10

Deep and Hard Tech

鎌田 富久 / Eric Migicovsky

14:10-14:40

From Japan to YC

福山 太郎 / 前田 紘典

14:40-15:10

How YC Works

Tim Brady / 前田 紘典

15:30-16:00

Open Office Hour

Tim Brady / Eric Migicovsky

16:00-16:30

Building & Scaling AI First Companies

Adam Gibson / Eric Migicovsky

16:30-17:00

Chat with YC Alumni - Atomwise

Abraham Heifets / Tim Brady

17:00-17:25

Building and Scaling Hard Tech Companies

滝野 一征 / 上野山 勝也 / 菅原 岳人

17:25-17:50

Hard Things About Bio

川田 治良 / 鮫島 昌弘



1 2



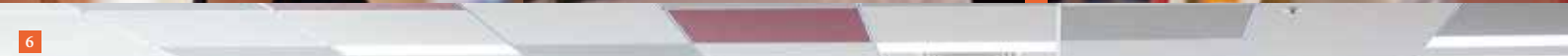
3



5



4



6

初日に行われた「YC オフィスアワー」は、YCのプログラム中に参加企業がパートナーと定期的に行うミーティング。今回、日本のスタートアップ15社が実際に体験した。**1 3 5** 通常のピッチ（プレゼン）と違い、討論形式で行われる。「何の問題解決につながるの?」「どれくらい頻繁にその問題は発生するの?」「既存のサービスではダメなの?」と矢継ぎ早にパートナーから飛んでくる質問に、たじろぐ参加者の姿も。**2 4** no new folk studioが開発した「スマートフットウェア」を吟味するYCパートナーのミジコフスキー氏。「スタートアップは一つの問題に集中すべきだ」と、繰り返し参加者たちに説いた。



Day 1

LODGE
Yahoo! JAPAN



1 2



3



4



5

6

2日目は量子コンピュータや医療技術をテーマに、慶応義塾大学で白熱した議論が繰り広げられた。2 乳がん検知のスタートアップを立ち上げた東氏は、起業を志す女性たちに「迷ったらとりあえずやってみて」とエールを送った。3 YCを卒業した唯一の日本人起業家であるFondの福山氏も登壇し、自らの体験を語った。4 6 公開オフィスアワーでは医療テック企業、坪田ラボとHoloeyesの2社がYCパートナーにさまざまな質問をぶつけた。このほか、同大学の伊藤教授とバンミーター教授は、量子コンピュータで実現するITの未来像を語った。また同大の医学者、中村氏と田澤氏は「米国に比べて起業しようとする医学者が少ない」と日本の課題を指摘した。



Day 2

Keio University



Day 3

The University of Tokyo

3日目はハードウェアやバイオを中心としたセッションが東京大学で行われた。
① PKSHAの上野山CEO (左) とMUJINの滝野CEOが、採用からマーケティングまで、スタートアップをスケールさせるコツを語った。② YC卒のスタートアップSkymindのCTOギブソン氏は「日本人はもっと自信をもつべきだ」と熱弁をふるった。③ GITAI (オフィスアワーに登壇) のVR遠隔操作を体験するYCパートナー。④ 難病ALSの治療を目指す起業家の川田氏は、バイオ分野で「一人起業」した体験をユニークな語り口で告白。⑤ YC卒のAI創薬企業Atomwiseのヘイフェツ氏は、「YCに参加したことが会社を大きく成長させる原動力になった」と振り返った。



SPEAKER

福山 太郎
Taro Fukuyama

Fond 共同創業者兼 CEO

2011年にAnyPerk（現Fond）を創業。日本人チームとして初めてYCを卒業し、2012年より福利厚生のアウトソース事業を米国で展開する。現在の社員数は約50人。YCのほか、DCM、アンドリーセン・ホロウィッツ、デジタルガレージ、サイバーエージェントなど国内外の大手VCから30億円超を調達。慶応義塾大学法学部卒。日本のアクセラレーター「Open Network Lab」の第3期生。

From Japan to YC / Taro Fukuyama

米国で「起業」することは、 みんなが思っているほど不可能じゃない

シリコンバレーはスタートアップにとっての『メジャーリーグ』。起業家もエンジニアも投資家もみんな一流の人ばかり。

逆に言えば、競争は厳しくて、採用から資金調達まですべてが苦労の連続。メディアで伝えられているほど、華やかでいいことばかりではありません」

YCを卒業した初の日本人起業家であるFondの共同創業者、福山太郎氏は、シリコンバレーでの日々をこう語った。マイクがいないほどの大きな声、Tシャツの下にのぞく筋肉、そしてスピード感あふれるプレゼンテーション。「メジャーリーグ」で戦っていることはその背中から伝わってくる。

Fondはサンフランシスコに拠点を置く2012年創業のスタートアップ。おもに中小企業向けに福利厚生サービスを提供する。顧客はSalesforceやDropbox、Lyftなど500社以上。2015年に米ビジネス誌「Fast Company」の「最も革新的な企業50社」に選出されたこともある。

福山氏がYCに参加したのは今から7年前。当初はソーシャルアプリを開発していたが、顧客数が伸び悩んでいた。「YCではプログラムの最終日に数百人の投資家の前でプレゼンするんです。そんな機会は起業家人生で一度しかない。その日に最高の状態で臨むには、現在のサービスを改善するより、一から別のサービスを作った方が早いと考えました」

最初の1カ月間は毎朝チームメンバーと新しいアイデアを考えては、街へ繰り出して「あなたならこのサービスに5ドル払いますか？」と尋ねて回っ

た。最終的に現在の「福利厚生」の事業アイデアに落ち着くまで、7回もピボット（事業転換）を重ねたという。

福山氏はYCで教わった言葉をいくつか紹介した。その一つは、「人々が欲しがるとモノを作れ」だ。「福利厚生」のアイデアが浮かんだとき、最初にポール・グレアム（YC共同創設者）に相談したら『それはぜんぜんダメだ』と言われました。ところが、『5ドル払うという人がいた』と伝えると、彼はすぐに考えを変えたんです。YCのパートナーたちは、自分の意見よりもユーザーの意見を大切にしていると感じましたね」

福山氏は、YCに参加するメリットの一つに、「ネットワーク」を挙げる。「日本から行くと、人脈もなければ、知り合いもない。そんな中、YCに入れば、1900社の卒業生がいて、同期も僕るときは65社。彼らの紹介があれば、シリコンバレーのほとんどの人とつながれるんです」

会場の出席者からは「米国で起業するにあたって言葉の壁を感じたか」との質問が出た。福山氏は自分自身の体験をもとにこんなアドバイスをする。「僕らはパートナーから『同期65社の中で君らが最低だ』と言われました。アイデアは良くないし、創業者はろくに英語もできないと。でも米国で起業することは、みんなが思っているほど不可能じゃない。シリコンバレーでは、同じように挑戦しているほかのアジア出身の人たちがそこら中にいる。言葉ができないことを言い訳にしないことが重要です」

今

年の夏季プログラムには、世界中のスタートアップ8500社から応募があったという。そのうち、書類選考と対面での面接に合格し、実際に参加したのはわずか140社。合格率は2%にも満たない。

YCに入るためには、よほどすごいプロダクトやビジネスモデルがないと難しいと思うかもしれない。だが「参加企業の60%はプロダクトをローンチする前の段階です」と、イベントに登壇したYCパートナーのティム・ブレイディ氏は打ち明ける。つまり、アイデアないしはプロトタイプ（試作品）だけの状態でも参加可能なのだという。

パートナーとの定期的な面談や、成功した起業家を招いた夕食会、さらには参加者同士を結ぶSNS……。YCはプログラム期間中も期間後も、あらゆる方法で起業家たちを手厚く支援する。同氏はその具体的なプログラム内容や応募プロセスについて丁寧に説明した。また、近年はソフトウェアだけでなく、「AIやロボティクス、バイオ、宇宙などあらゆる産業に投資している」と語った。

日本の起業家にとって気になるのは、YCに参加するからには米国に拠点を移さなければならないのかという点だろう。これについて同氏は、「外国企業の約半数は卒業後に本国へ戻る」と明かし、「大きな市場をとれる可能性があるなら、日本市場に特化したビジネスでも問題ない」と述べた。

会場からは、選考プロセスに関する質問が多く出た。「面接ではどんな点を重視しているか」との問いに対して、ブレイディ氏は「アイデアよりも人やチームが重要」だとして、次のように答えた。

「どんなにアイデアが素晴らしくても、99%はうまくいきません。それよりも、創業者らがプレッシャーにどう耐えるか。『そのアイデアは最悪だ』とけなされても、めげずに立ち上げられるか。そして新しいアイデアを素早く学習できるか。そんな起業家としてのマインドセットを見ています」

今回のイベントは、日本の起業家にとってYCのプログラムを知り、体験する場であると同時に、YCにとっては、日本の有望なスタートアップを発掘する場でもある。イベントを終えたブレイディ氏はこんな言葉を残した。

「日本のスタートアップ・エコシステムはわれわれが想像していた以上に活発で驚きました。大学の起業家やメンターたちのクオリティも一流です。今後、YCが日本のスタートアップとの関わりを深めていけるのを今からとても楽しみにしています」

How YC Works / Tim Brady

どんなにアイデアが素晴らしくても、
99%はうまくいきません



SPEAKER

ティム・ブレイディ

Tim Brady

Y Combinator パートナー

1990年にスタンフォード大学（電気工学専攻）を卒業後、モトローラの日本法人に約3年間勤務し、日本でキャリアをスタートさせる。その後、ハーバード大学でMBAを取得し、1995年に創業初期の米Yahoo!に入社。CPO（最高製品責任者）として同社の急成長を支え、ヤフージャパンの立ち上げにも関わる。2011年に教育アクセラレーターImagine K12を創設。2016年より現職。おもに教育関連のスタートアップを支援する。

GUEST SPEAKERS

ゲストスピーカー



Tim Brady

Y Combinator パートナー



Adam Gibson

SkyMind CTO 兼
共同創業者 / YC 卒業生



Abraham Heifets

Atomwise CEO /
YC 卒業生



Eric Migicovsky

Y Combinator パートナー



Rodney D. Van Meter

慶應義塾大学 環境情報
学部准教授 政策・
メディア研究科委員



東 志保

株式会社 Lily MedTech
代表取締役



伊藤 公平

慶應義塾大学 理工学部長
理工学研究科委員長



上野山 勝也

株式会社 PKSHA
Technology 代表取締役



馬田 隆明

東京大学 産学協創推進本部
本郷テックガレッジ
ディレクター



尾原 和啓

IT ジャーナリスト



鎌田 富久

TomyK 代表 /
株式会社 ACCESS
共同創業者



川田 治良

株式会社 Jiksak
Bioengineering CEO



國領 二郎

慶應義塾大学 常任理事、
総合政策学部教授



鮫島 昌弘

ANRI パートナー



菅原 岳人

東京大学 産学協創推進本部
インキュベーション・
マネージャー



滝野 一征

MUJIN 株式会社
CEO 兼 共同創業者



田澤 雄基

慶應義塾大学医学部
精神・神経科領域横断
イノベーション研究室 助教



中村 雅也

慶應義塾大学 医学部長補佐
(産学連携・広報担当) /
整形外科教室 教授



福山 太郎

Fond, Inc. CEO /
YC 卒業生



前田 紘典

BEENEXT
マネージングパートナー



山岸 広太郎

慶應イノベーション・
イニシアティブ
代表取締役社長



発行：シリコンバレー・ジャパン・プラットフォーム

住所：〒102-8282 東京都千代田区紀尾井町1-3 東京ガーデンテラス紀尾井町 紀尾井タワー（ヤフー株式会社方）

URL：www.svjp.org